

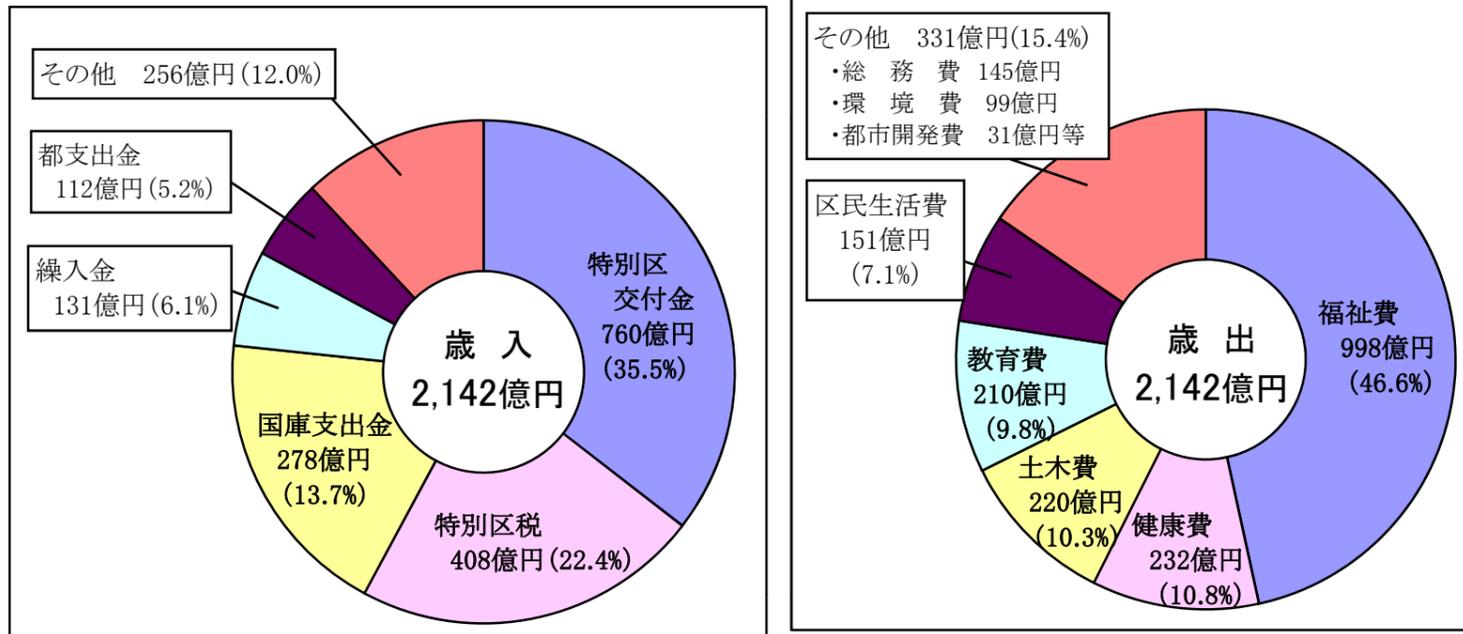
財政状況の公表（22年度上半期）概要

※各計数は、原則として表示単位未満四捨五入のため、合計等に一致しないことがあります。

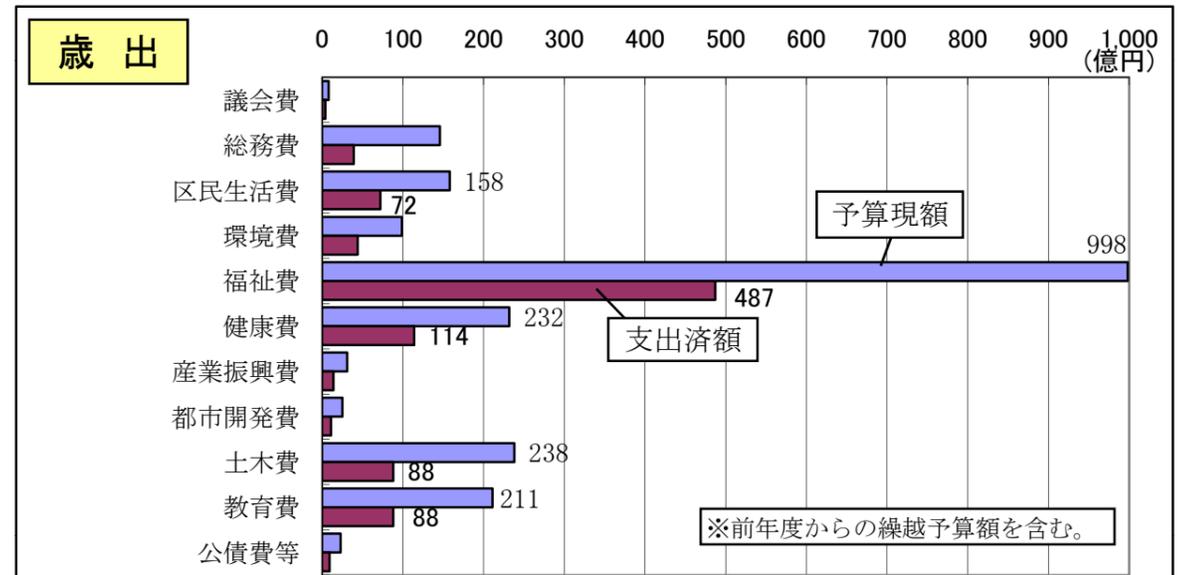
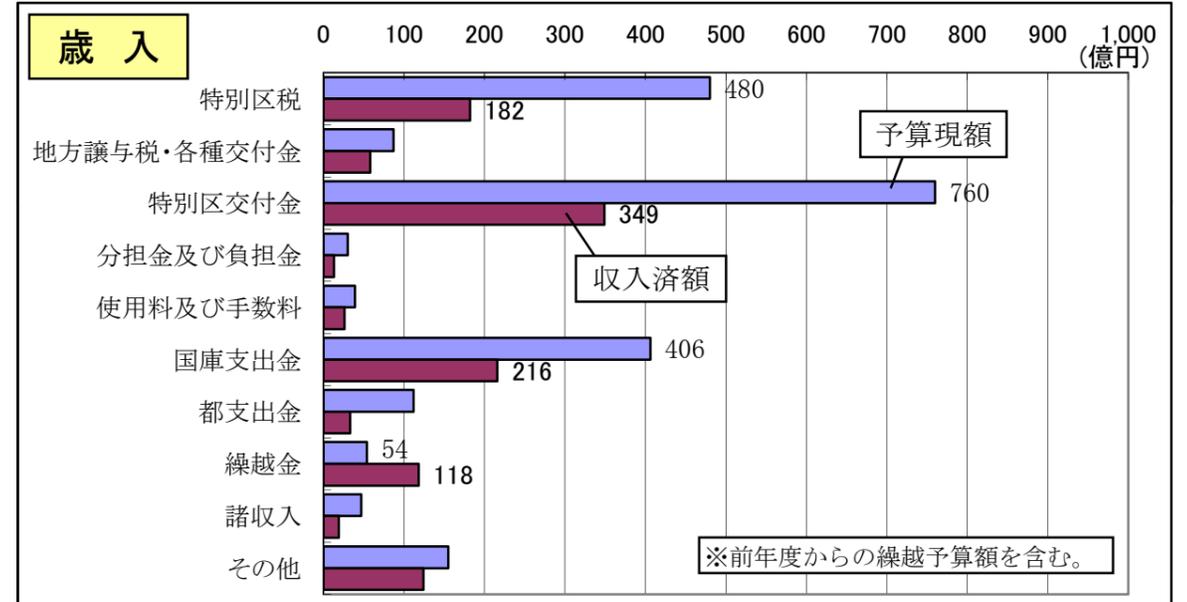
① 22年度予算のあらまし 一般会計「1号補正」の概要

補正額	13億1,855万7千円		
〈歳入〉		〈歳出〉	
◇繰越金	10億5,534万8千円	◇新川地区文化施設建設費	7億4,248万5千円
◇国庫支出金	2億4,706万円	◇東部地区図書館建設費	3億5,006万3千円
◇寄付金	679万4千円	◇定期予防接種費(子宮頸がんワクチン接種費用助成費)	1億6,042万4千円
◇都支出金	535万5千円	◇図書館管理費(東部地区図書館開設に係る運営費)	4,574万8千円
◇諸収入	400万円	◇その他	1,983万7千円

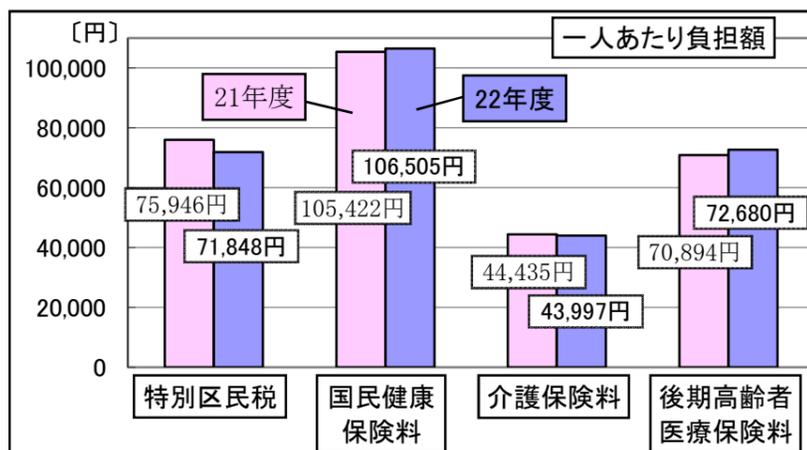
補正後の一般会計予算の構成



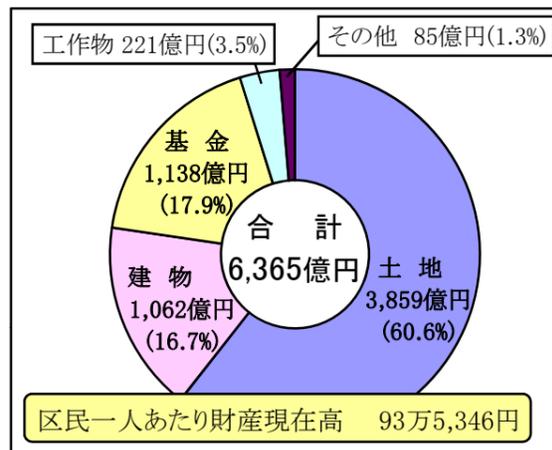
② 22年度予算の執行状況 一般会計（平成22年9月30日現在）



③ 区民の負担概況（平成22年9月30日現在）

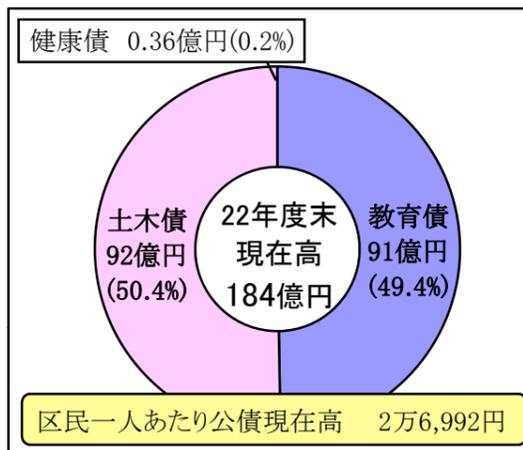


④ 財産の現在高（平成22年9月30日現在）



基金とは…
 積立基金と運用基金の2種類があります。左の基金はこの2つの合計です。
 積立基金は、家計でいうと貯金です。災害発生時や老朽化した施設の改築等への備えで、9月末現在高は938億円です。
 運用基金は、一定額の基金を土地取得のために運用するもので、200億円あります。

⑤ 公債の現在高（平成22年9月30日現在見込）



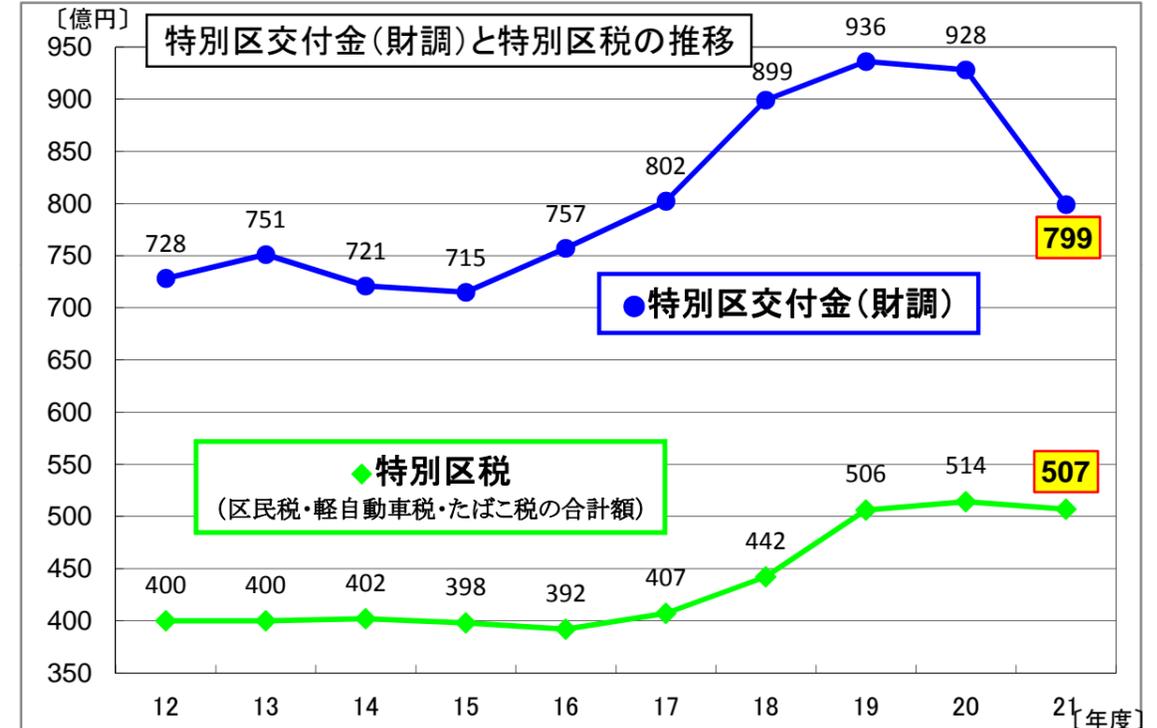
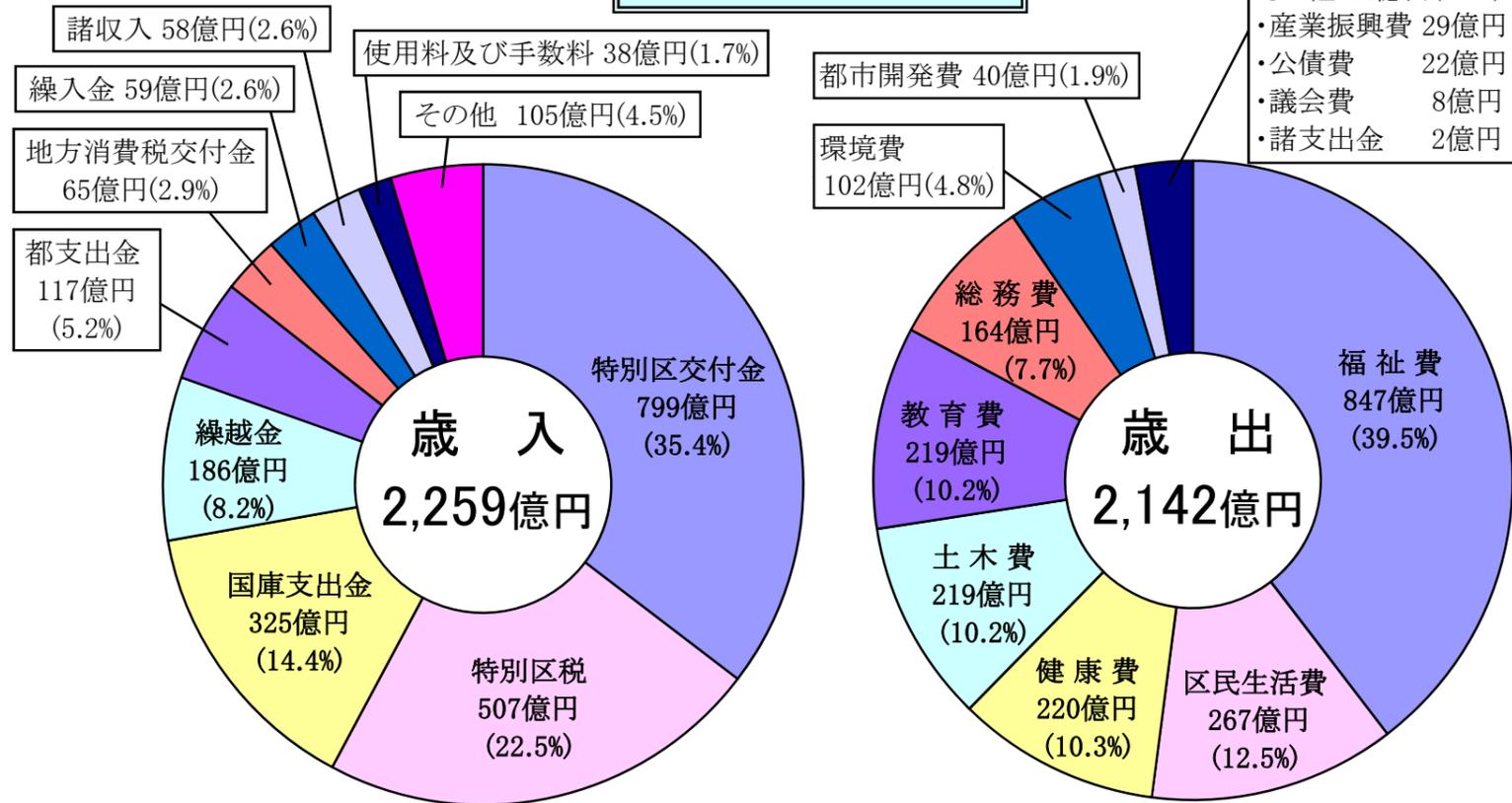
公債(区債)とは…
 家計でいうと住宅ローンなどの借金です。
 道路整備や学校の大規模改修など、いくつかの世代にわたって利用することのできる施設について、将来の区民の方々にもその費用の一部を負担していただくため、公債(区債)を借入れ、負担の公平を図っています。

平成21年度 決算の概要

※各計数は、原則として表示単位未満四捨五入のため、合計等に一致しないことがあります。

江戸川区の人口(住民基本台帳人口+外国人登録人口)
677,149人(平成21年10月1日現在) <東京23区中 4番目>

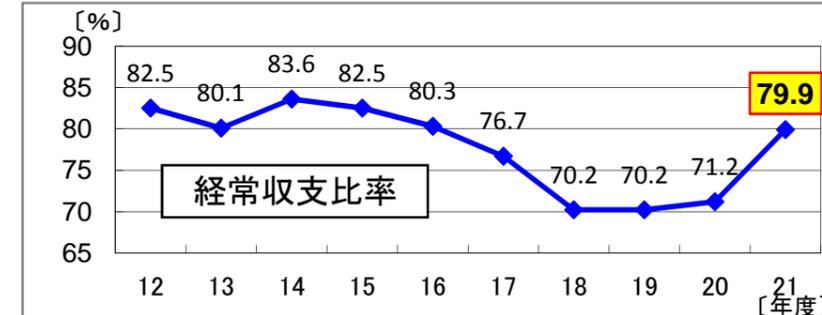
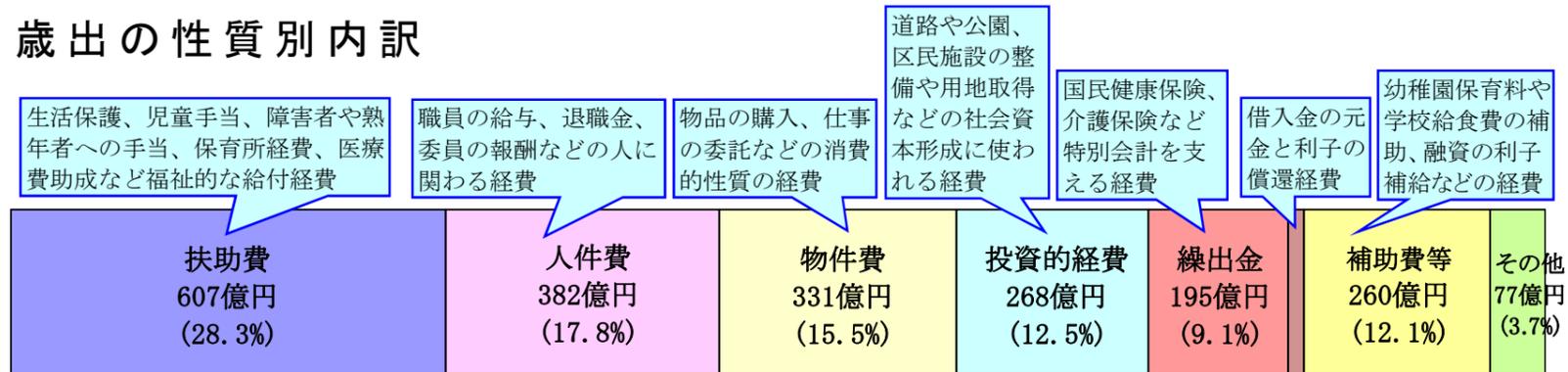
一般会計



平成19年度は、税率フラット化、定率減税全廃等により特別区税は大幅な増収となりました。しかし、この増額とはほぼ同規模の国・都補助金が削減されているため、区の収入総額が増えたわけではありません。また、特別区交付金(財調)は、都と区の配分率が52%から55%になり、過去最大の収入額となりました。

平成21年度は景気の低迷などにより、特別区交付金(財調)は、かつてない大幅な減収となりました。特別区税の減収と合わせて、「経常収支比率」の悪化要因となっています。

歳出の性質別内訳



経常収支比率

財政構造の弾力性を計る指標で、適正水準は70%~80%です。

21年度は、適正水準内ですが、前年度から8.7ポイント悪化しました。

平成21年度決算に基づく健全化判断比率

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
江戸川区	—	—	△2.5%	—
早期健全化基準	11.25%	16.25%	25.0%	350.0%

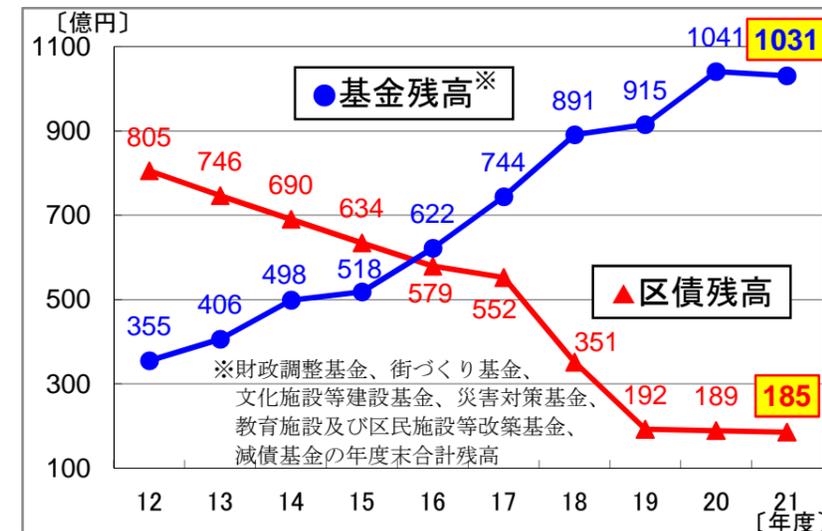
※表中の「—」はマイナス値を表し、21年度決算が黒字であったことと、将来負担すべき額よりも基金(貯金)の方が多く、将来負担比率の該当がなかったことを示しています。

なお、実質公債費比率がマイナスの場合は「△」と表示しています。

全国一位の健全性 (2年連続)

実質公債費比率は、収入規模に対し、借金の返済割合を示すものですが、前年度に続き2年連続で全国1,750の区市町村の中で最も良い数値となりました。

※早期健全化基準とは、この数値を超えると財政が危険な状態であることを示す、国が定めた指標で、江戸川区の場合の指標を記載しています。



区債と基金の残高

区債残高は、18・19年度に繰上償還を実施したため、減少しました。21年度末では185億円となりました。

基金残高は、「文化施設等建設基金」などの取崩しにより、前年度より10億円減少しました。